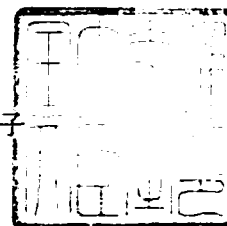


認 定 書

国住指第 1644 号
平成 15 年 9 月 9 日

積水化学工業株式会社
代表取締役 大久保 尚武 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-0140
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
給・排水管・ケーブル/モルタル・アルミニウムはく積層紙・黒鉛含有ブチル
ゴムシート充てん/壁耐火構造/貫通部分（中空壁を除く）
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(別添)

1. 構造名

給・排水管・ケーブル／モルタル・アルミニウムはく積層紙・黒鉛含有ブチルゴムシート充てん／
壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
開口部	(形状) 矩形 (面積) 0.07m ² 以下
占積率 (開口面積に対する給・排水管・ケーブル断面積の総合計の割合)	27.8%以下
貫通する壁の構造等	A L Cパネル 厚さ 100以上 コンクリート 厚さ 100以上

3. 材料構成

(寸法単位：mm)

項目	申請構造		
給・排水管・ケーブル	1) 大きさや管	材質	ポリエチレン系樹脂
		形状	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 円形 ・外径 23.0～42.0 ・内径 17.0～36.0 (2) 楕円形 ・外径 長辺部 36.0～40.0 短辺部 23.5～27.0 ・内径 長辺部 29.4～33.0 短辺部 16.9～20.0
	内管 (架橋ポリエチレン管)	規格	JIS K 6769, JIS K 6787
		外径	8.0～27.0
		内径 本数	4.8～20.5 1本
	ケーブル	材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (2) ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (3) 架橋ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (4) 架橋ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (5) ビニル絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3342、JIS C 3401 (6) シースなし
		構成	0.3mm ² ×3芯以下
		外径	6以下
		本数	1本以下

(別添-1)

(寸法単位：mm)

項目	申請構造		
給・排水管・ケーブル		材質	ポリエチレン系樹脂
		形状	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)円形 ・外径 23.0～42.0 ・内径 17.0～36.0 (2)楕円形 ・外径 長辺部 36.0～40.0 短辺部 23.5～27.0 ・内径 長辺部 29.4～33.0 短辺部 16.9～20.0
		規格	JIS K 6769, JIS K 6787
		外径 内径 本数	8.0～17.0 4.8～12.8 2本以下
	内管 (架橋ポリエチレン管)	規格	JIS K 6769, JIS K 6787
		外径 内径 本数	8.0～17.0 4.8～12.8 2本以下
		材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (2)ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (3)架橋ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (4)架橋ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (5)ビニル絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3342、JIS C 3401 (6)シースなし
	ケーブル	構成	0.3mm ² ×3芯以下
		外径 本数	6以下 1本以下
		ラッピング	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ラッピングなし (2)ラッピングあり ①ラッピングテープ ・材質 アルミニウムはく／PETフィルム ・厚さ 0.023以上 ・幅 30以上 ②粘着テープ ・材質 PETフィルム ・厚さ 0.025以上 ・幅 10以上

(寸法単位：mm)

項目	申請構造			
給・排水管・ケーブル		材質	ポリエチレン系樹脂	
		形状	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)円形 ・外径 23.0～42.0 ・内径 17.0～36.0 (2)楕円形 ・外径 長辺部 36.0～40.0 短辺部 23.5～27.0 ・内径 長辺部 29.4～33.0 短辺部 16.9～20.0	
	4) さや管	内管 (ポリブテン管)	規格	JIS K 6778, JIS K 6792
			外径	11.0～27.0
			内径 本数	7.6～21.2 1本
	ケーブル	ケーブル	材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (2)ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (3)架橋ポリエチレン絶縁ポリエチレンシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (4)架橋ポリエチレン絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3401、JIS C 3605 (5)ビニル絶縁ビニルシース ・規格 JIS C 3342、JIS C 3401 (6)シースなし
			構成	0.3mm ² ×3芯以下
			外径	6以下
			本数	1本以下
	5) ポリブテン管		規格	JIS K 6778, JIS K 6792
			外径	11.0～42.0
			内径	7.6～34.9
	6) 硬質塩化ビニル管		規格	JIS K 6741, JIS K 6742
			外径	18.0～38.0
	7) 架橋ポリエチレン管		規格	JIS K 6769, JIS K 6787
外径			8.0～34.0	
8) 被覆付架橋ポリエチレン管		規格*	JIS K 6769, JIS K 6787	
		被覆フィルム	エラストマー樹脂	
		外径	17.0～31.0	
		内径	9.8～20.5	

*：被覆を除く素管の規格を示す。

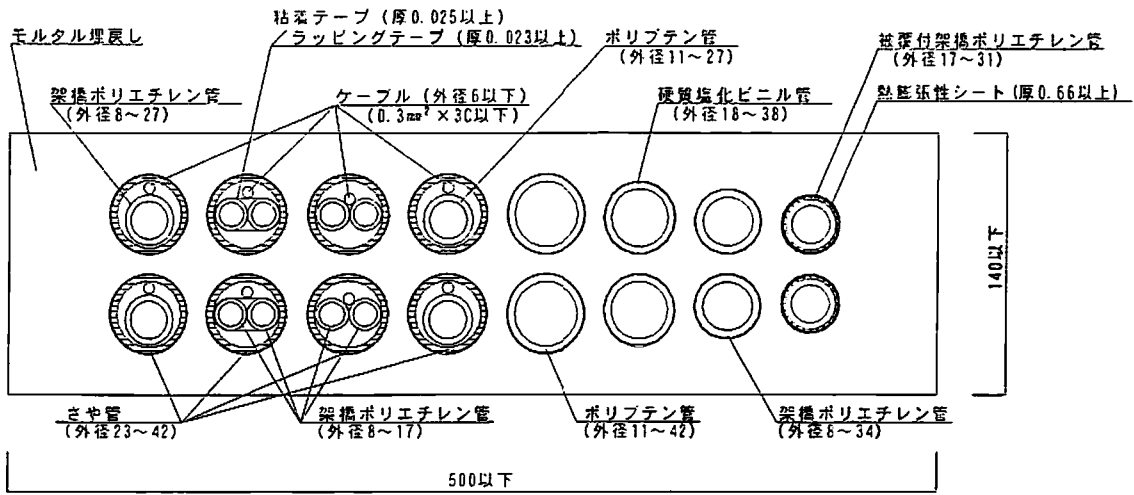
(寸法単位：mm)

項目	申請構造				
防火措置材料	膨張材 (以下、「熱膨張性シート」という)	総厚さ	0.66以上		
		幅	60~62		
		基材	厚さ	0.16 \pm 0.02	
			幅	60~62	
			構成	アルミニウムはく積層紙	
				ポリエチレン層	0.02
				上質紙	0.105
		ポリエチレン層		0.02	
		アルミニウムはく	0.015		
		厚さ	0.5以上		
幅	60~62				
シート	組成 (質量%)	黒鉛含有ブチルゴムシート			
充てん材		材質	モルタル		
		厚さ	100以上		

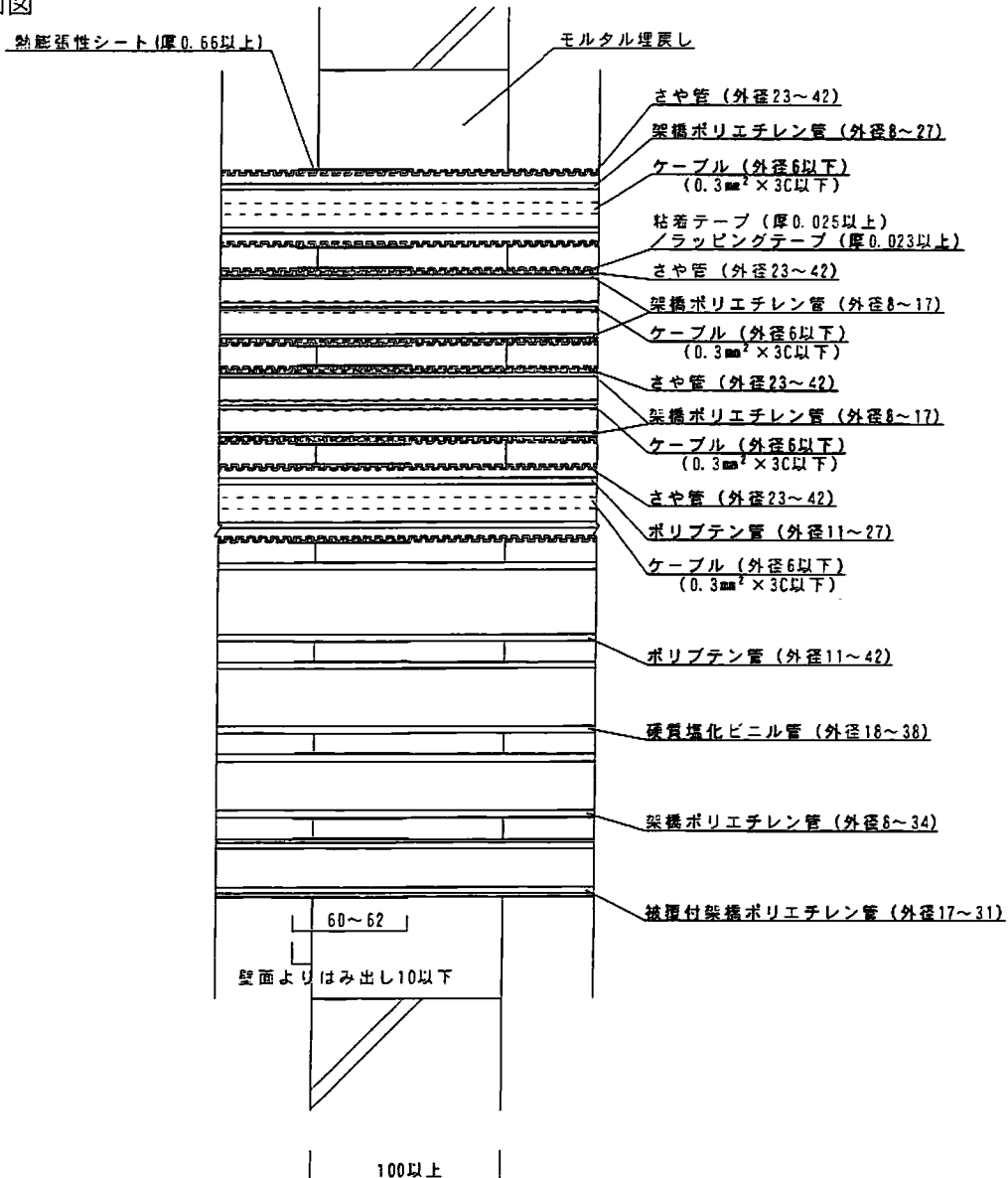
4. 構造説明図

(寸法単位：mm)

・正面図

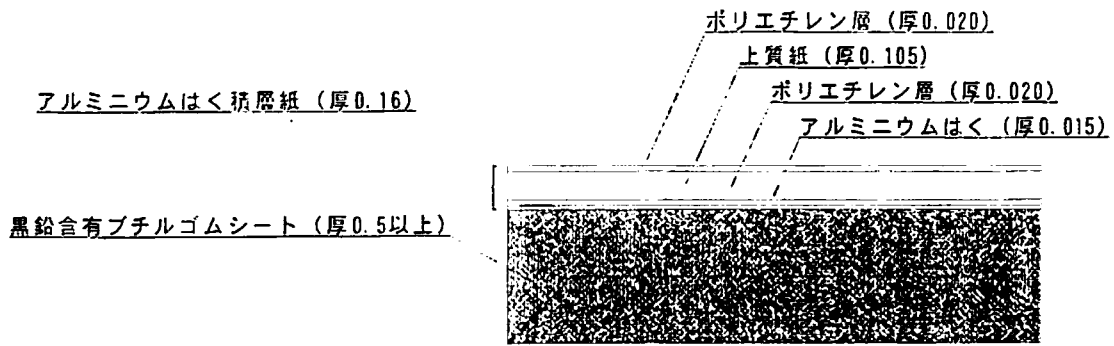


・断面図

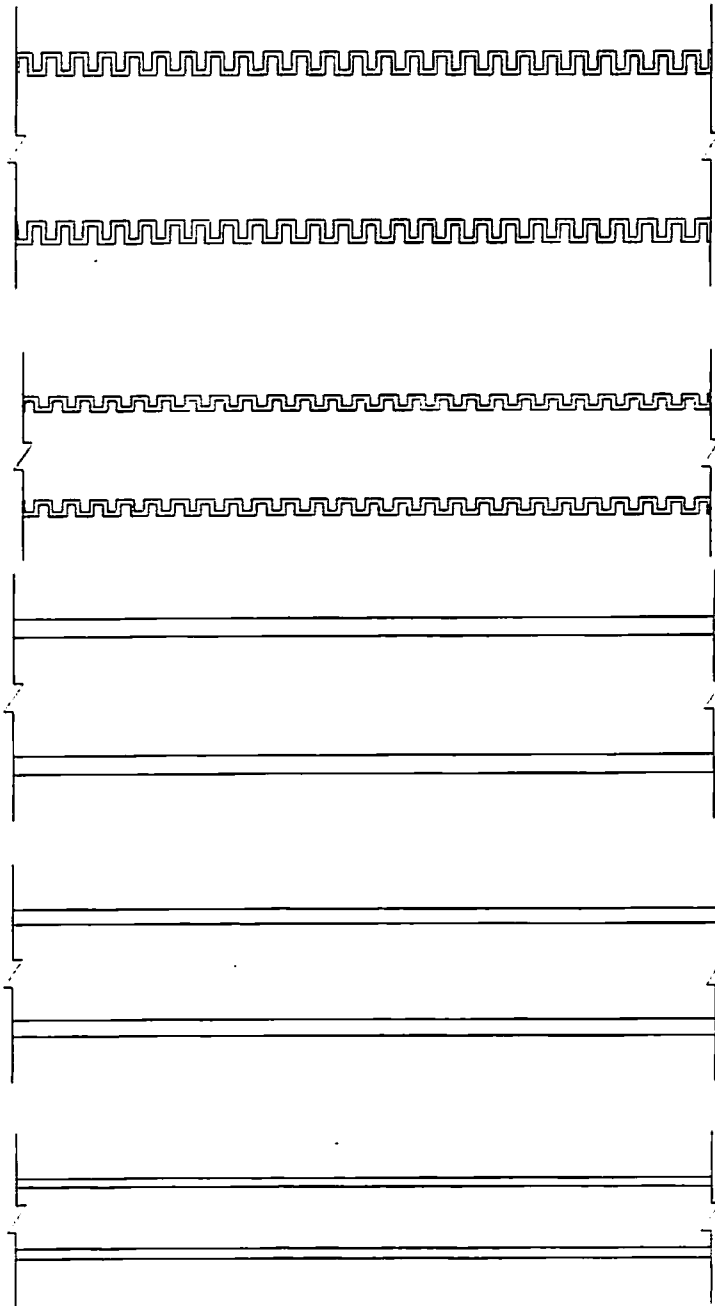
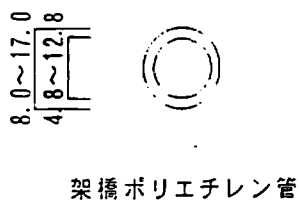
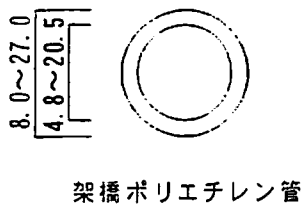
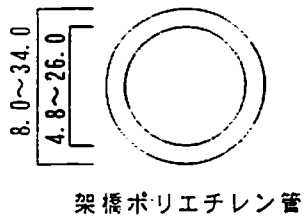
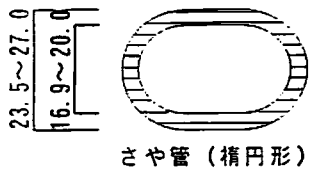
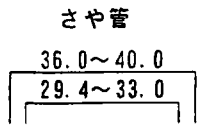
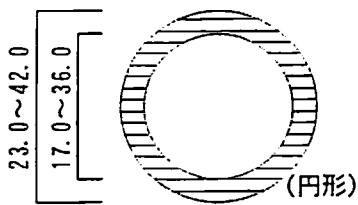


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

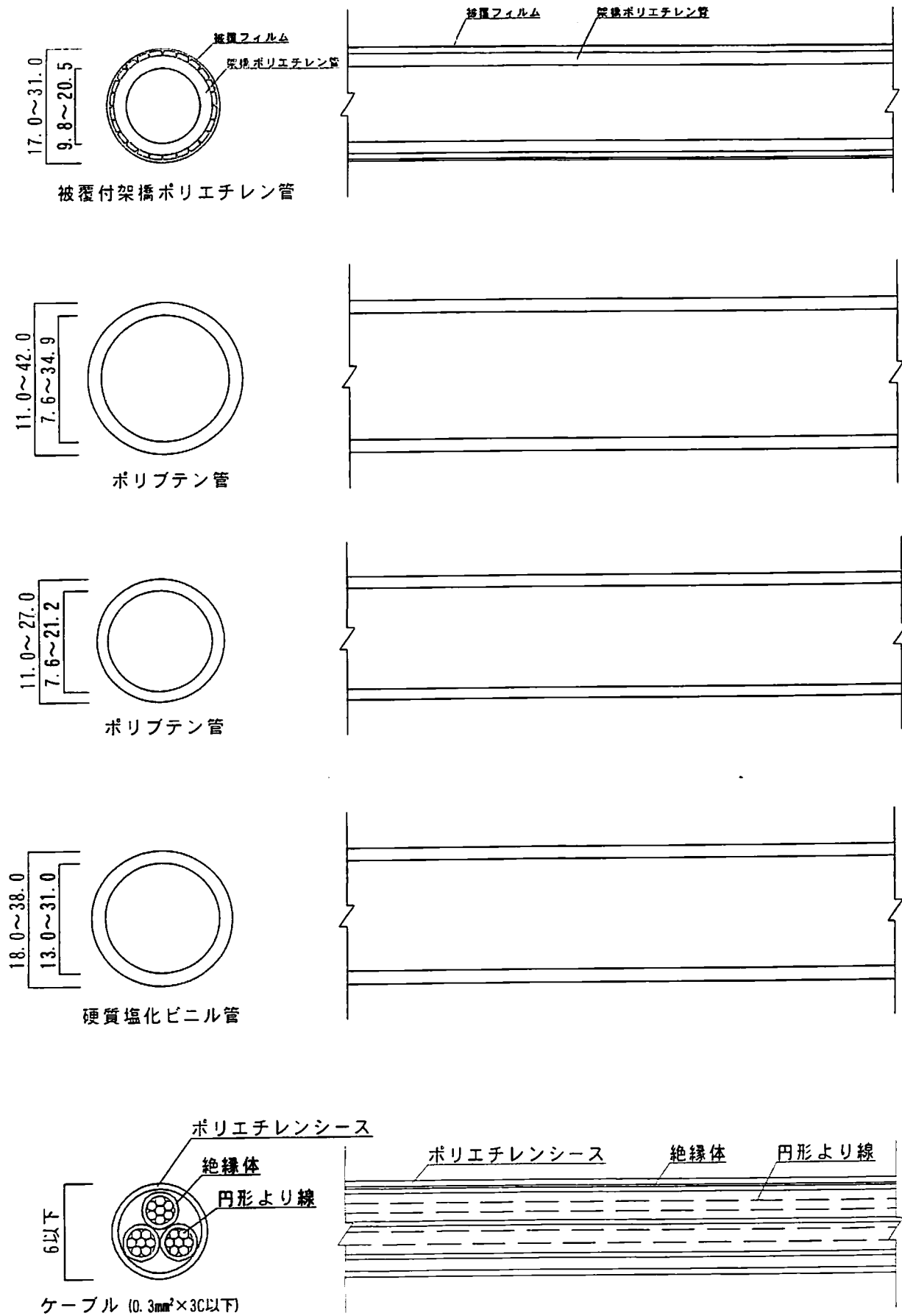
熱膨張性シート図



管 断面図



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等
＜施工手順＞

(1) 事前準備

(1)-1 開口部の設置

管が区画貫通する位置に予め開口部を設置する(開口面積0.07㎡以下)。

(2) 区画貫通処置

(2)-1 配管前の場合

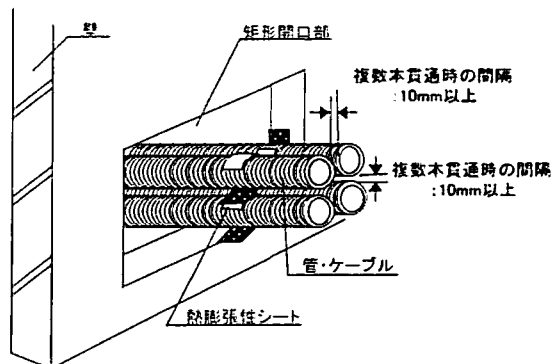
①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

熱膨張性シートを巻き付ける位置に墨出しをする。

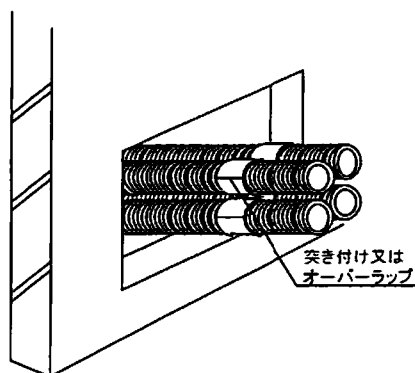
墨の位置は巻き付けた熱膨張性シートが確認できる程度(壁面より10mm以下)の位置となるようにする。

②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。

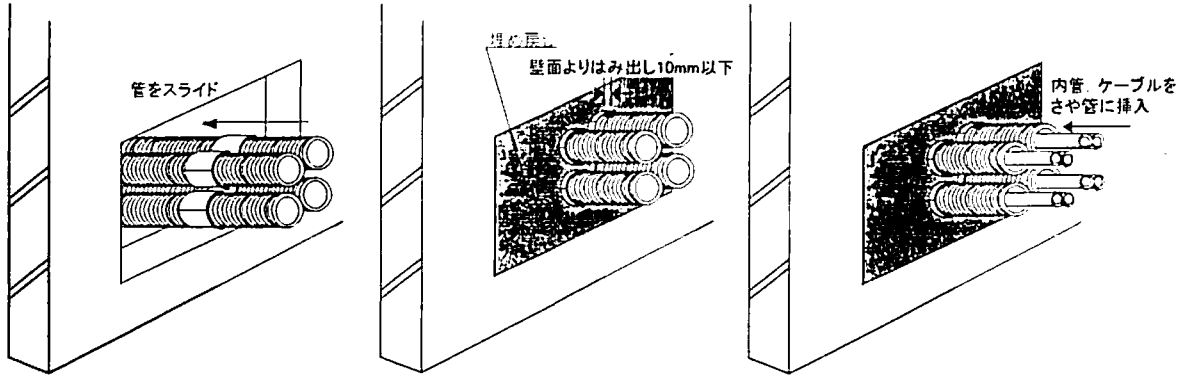


また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)。



③開口部の埋め戻し

管をスライドさせ、所定の位置に設置し、開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。



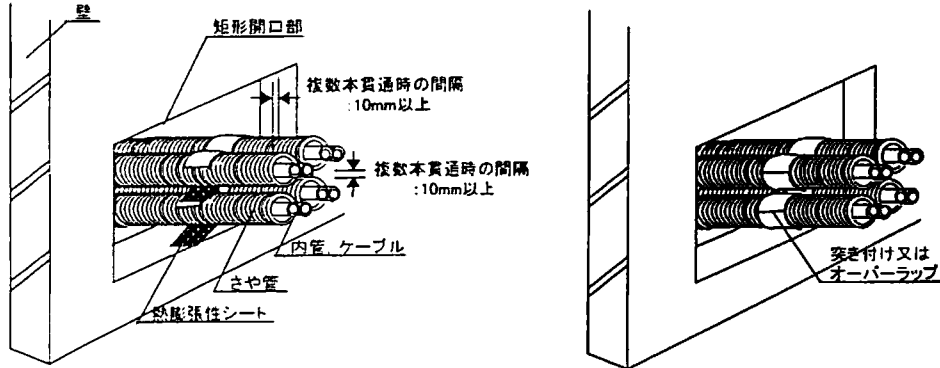
(2)-2 配管後の場合

①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

壁面より10mmの位置に墨出しをする。

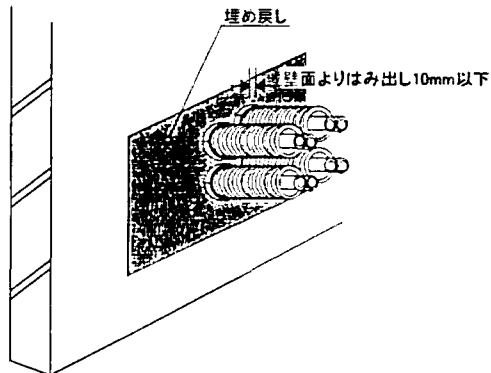
②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)



③開口部の埋め戻し

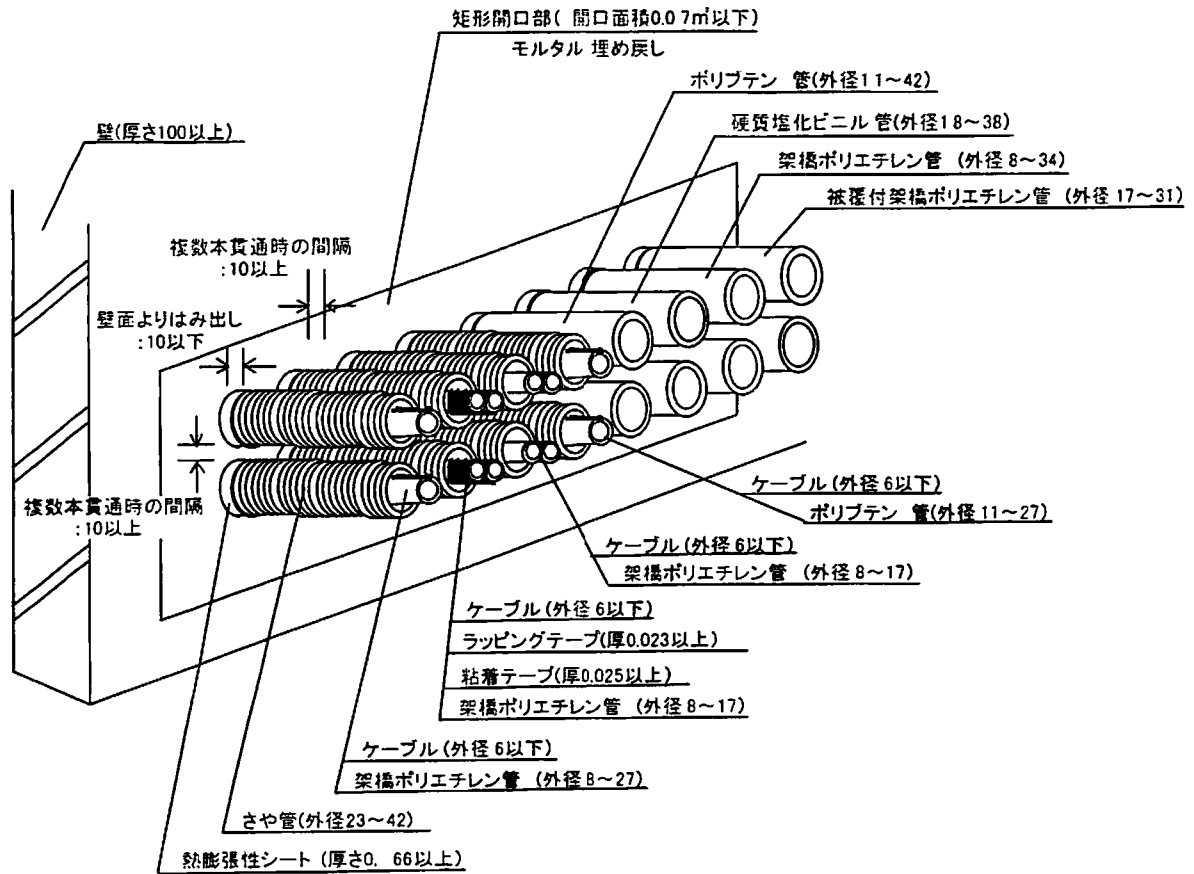
開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。



(施工図)

(寸法単位：mm)

・斜視図



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり